委員会の動き

○介護保険等に関する調査(平成28年5月17日)

教育民生常任委員長 藤丸 髙德



地域支援事業

国保会計の歳入歳出について、項目ごとの内容について 調査を行った。

歳入では、前期高齢者の被保険者が多いことにより交付 される前期高齢者交付金の占める割合が非常に高く、全国 健康保険協会等の保険者からの補填が多い状況であった。

歳出では、療養給付費の占める割合が高く、高知県の市 町村別の医療費の状況でみても、大豊町の1人当たりの医 療費が県内 1 位であり、今後、医療の高度化、高額な医薬品 などによる支出の増加も考えられるため、重症化予防対策、 保健事業の推進等、なお一層医療費削減に向けての努力が 必要である。

また、平成30年度に予定されている国保の都道府県広域 化に向け、高知県及び関係団体と連携を図り適切に国保事 業を進めていく必要がある。

平成26年度 高知県市町村1人当たりの医療費(円)

	1位	2位	3位
高い	大豊町	馬路村	安田町
	562, 166	509, 106	483, 871
低い	四万十市	田野町	宿毛市
	318,008	324, 344	333, 779
県平均		386, 318	

介護保険については、地域支援事業及び介護給付の財源構成について調査を行った。

地域支援事業の予防事業は、一般財源の投入が認められ、地域の実情に応じた対応が可能になった。

介護給付については、町内の在宅介護サービス事業者が少なく、施設サービスについても特別養護老人ホー ム1カ所のみである。介護施設の不足は、養護老人ホームや医療療養型の病床数によりカバーされていたため、 介護保険料が県内で最も低い額となっていた。

今後は、介護サービス事業所の嶺北地域への参入が見込まれ、介護保険を取り巻く状況は変化していく。介 護負担の軽減と保険料のバランスが特に重要と考えられる。

大豊町議会事務局【ご意見やご感想は】

電話 (代表)



本地震などの想定できな を過ぎたわけです 合の など

委員会の動き

○「CLT組み立て工場」及び「バイオマス発電所」視察調査(平成28年6月2日)

総務産業建設常任委員長 三谷幸一郎



CLT組み立て工場



真庭バイオマス集積基地

岡山県真庭市に本社がある銘建工業と真庭バイオマス発 電所を視察調査した。銘建工業では今年4月にCLT組み 立て工場が完成し稼働している(CLTとは、ひき板を並べ た層を板繊維方向が直交するように重ねて接着した大判の パネル。メリットは優れた経済性、耐熱、耐火、耐震性等)。 CLTを使用して国内初の3階建て住宅が本町で建築され ている。北欧やカナダなどでは高層ビルの建設も進んでい る。北欧の例では従来の鉄筋コンクリート造りの建物と比 べ、コストの面で約25%安く、重量の面で約62%軽いとの データもある。CLTを使用しての建築基準法も改正とな り、今後、日本でも住宅にオフィスに数多く建築されると 思われる。本町に誘致した高知おおとよ製材を核として、 さらなる林業等の発展が期待される。

次に昨年4月に運転開始した真庭バイオマス発電所は森 林から出された木材、未利用材、間伐材、製材端材、枝葉、 樹皮に至るまで余すところなく全部発電用の燃料として利 用するとの理念で真庭市、銘建工業、森林組合など10団体 で運営会社を設立し、発電出力は、10.000kwで「再生可能工 ネルギーの固定価格買取制度 | を利用して電力会社に販売 されるほか、地域内への電力供給の仕組みづくりも目指し ている。運転開始初年度から98%の稼働率で順調に推移し ている。本町においても、バイオマス発電所の建設に向け て準備を進めていたが、燃料材等の諸問題で実現されてい

しかしながら、CLTの普及に伴い素材生産量の増加に よる相乗効果により問題が解決され、建設できるよう期待

議会からのお知らせ

■大豊町区長協議会で議会報告会を開催

4月28日(木)大豊町議会基本条例第4条に基づき、大 豊町区長協議会のご了承をいただき協議会総会の席上にお いて議会報告会を開催いたしました。

大豊町議会といたしましては、町の議決機関ということ を念頭におき、区長の皆さまのご期待にお応えできるよ う、鋭意努力いたす所存でございますので、何とぞ一層の ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今 回、報告会をさせていただきましたことに議員一同大変感 謝をいたしております。区長の皆さま誠にありがとうござ いました。



大豊町区長協議会総会で議会報告会